勝ち点16 2位をキープ

関東大学サッカーリーグ戦（前期）第9節法大戦＝6月10日、北区・味の素フィールド西が丘

プロ内定選手を擁するなどタレントぞろいの明大、昨年のリーグ王者筑波大、そして東洋大に勝利し、3連勝と好調の専大サッカー部。インタビューをしても多くの選手から「チーム一丸」という言葉が聞こえるように、チームの雰囲気は非常に良い。

前半3分、右サイドを持ち前のスピードで突破したFW中山克広（経済4・麻布大学附属高）が低い弾道のクロスを入れると、FW遠藤翔太（経営2・広島皆実高）が豪快なダイビングヘッドで押し込み、開始早々の先制に成功する。しかし、同19分にFKを直接決められ、同点に追いつかれてしまう。その後は競り合いとなり、互いに決定機を作ることができない。終盤には法大に押し込まれる場面もあったが、集中した守備で切り抜け、そのまま1―1で試合終了。この結果、5勝1分け3敗で勝ち点16となり、2位をキープしている。

次節の相手は首位の早大。ゴールを決めた遠藤は「勢いに乗っている相手なので、食い止めて逆に自分たちがまた勢いに乗れるようにしたい」と気合十分だ。

また、この試合は集中応援となり、雨天にもかかわらずOB・OGなど600人以上の観客が詰めかけ、全學応援団による応援やチアリーダーのハーフタイムショーも行われるなど大いに盛り上がった。（藤森崚祐・文3＝写真も）

小林主将 J2甲府内定

小林岩魚主将（法4・甲府第一高）＝写真＝のJ2ヴァンフォーレ甲府入団が内定した。加入は2019年シーズンから。小林主将は「プロとして甲府に戻ることが目標だったのでとてもうれしい。1年目から活躍できるように頑張りたい。まずは専大で優勝できるようにチームに貢献したい」と話した。

6位に終わる

東日本学生レスリングリーグ戦＝5月16～18日、世田谷区・駒沢体育館

大会は7階級の勝敗を競う団体戦。専大は1部16校を4グループに分けた予選リーグで2位。続く5～8位決定リーグを2勝1敗とし、全体6位でリーグ戦を終えた。

予選リーグは中大戦（4―3）、防大戦（7―0）と連勝スタートを飾り、上々の滑り出しを見せた。1位通過をかけた大一番では、優勝候補の一角である拓大を相手に6試合を終えて3―3と接戦に持ち込んだが、7戦目を落とし、3―4で敗れた。5～8位決定リーグは、初戦で早大に3―4で惜敗したものの、その後の国士大戦（4―3）に勝利。最終戦は井出光星主将（経済4・上田西高）らの活躍で明大戦（6―1）に勝利を収めた。

大会を通して最終戦を任されることの多かった125kg級の石井良祐（法4・滑川高）は「団体戦はチームの結束が試される。際どい場面が多かったが、みんなの応援のおかげで、あと一歩のところで踏ん張り、力を出すことができた」とリーグ戦を振り返った。また、最終学年を迎え、「自分の得意技で勝負できるよう強引さを出していきたい」と前を見据えた。（藤森＝写真も）

相手の足を取り、ポイントを狙いにいく井出主将＝明大戦

4勝7敗で5位

東都大学準硬式野球春季リーグ戦＝4月1日～5月28日、八王子市・上柚木公園野球場ほか

序盤のカードで勝ち点が取れず、苦しいスタートとなった春季リーグ戦。3月の関東選手権優勝校の東洋大から勝ち点を挙げるなど意地を見せたが、4勝7敗で勝ち点2となり、5位という結果に終わった。

今季は「バッテリー陣に課題が残った」と阿部拓磨主将（経営4・専大松戸高）が語るように、大量失点で敗れる試合が多かった。一方で、打撃陣は「試合終盤の粘り強さが増した」（阿部主将）と成長した。象徴的な試合が東海大との開幕戦。3―5と2点ビハインドで迎えた最終回に専大打線が爆発しこの回に一挙8点を奪い、勝利した。この試合以外にも終盤に得点を挙げるケースが多かった。

秋季リーグに向け阿部主将は「時間は十分にある。投手陣は仕切り直し、野手陣も相手にかかわらず自分のスイングができるように、各自の課題を克服していきたい」と語った。更なるレベルアップを図り、秋季リーグ戦の連覇を目指す。（久保信裕・文3）

全日本学生出場決める

東京学生柔道優勝大会＝5月27日、千代田区・日本武道館

専大はベスト16となり、昨年に続き全日本学生柔道優勝大会出場を決めた。

団体戦となる今大会。昨年同様、シード枠での出場となり、初戦を勝利すれば全日本大会出場が決まる。その初戦、大正大戦は、3勝4引き分けで勝利した。続く3回戦では、強豪・日大と対戦。格上相手にも臆せず攻めのスタイルを貫くも、2引き分け5敗となり、3回戦敗退、ベスト16で今大会を終えた。

強豪の厚い壁に阻まれはしたものの、今大会での悔しさをバネに、全日本学生大会では躍進を期待したい。（高田康平・経営2）

男子1部に復帰

関東大学ゴルフ春季Bブロック対抗戦＝5月26、27日、茨城県・サザンヤードカントリークラブ

出場8人のうち、上位7人の2日間のトータルスコアを競う今大会。専大は好スコアを記録した馬渡清也（経営3・日章学園高）、櫛山勝弘（商3・拓大紅陵高）らがチームをけん引し、2位の日体大に22打差をつけ、トータル1032打で優勝。昨秋の2部降格から最短で1部復帰を果たした。

記録コーナー

◇剣道部
▽関東学生選手権（5月13日、日本武道館）平野青地（文4・東福岡高）、了戒一彰（商4・東福岡高）、水野義仁（経済2・筑紫台高）の3人が全日本学生選手権（7月8日、日本武道館）の出場権を獲得

◇バスケットボール部
▽関東大学新人戦（5月26日～6月10日、大田区総合体育館ほか）ベスト16

◇バレーボール部
▽春季大学リーグ戦（2部、4月8日～5月20日、各大学）9勝2敗3位

◇フェンシング部
▽関東学生選手権（5月8～15日、駒沢オリンピック公園屋内競技場）【男子エペ】2勝3敗4位【女子フルーレ】2勝3敗4位

◇陸上競技部
▽関東学生対校選手権（5月27日、相模原ギオンスタジアム）【2部5000㍍】長谷川柊（商3・八海高）5位（14分7秒05）

Zoom UP

バスケットボール部 キング 開（かい）（文1・アレセイア湘南高）

チームを日本一に

「目標は海外で活躍するプロ選手になること。まずはチームが日本一になること」。そう話すバスケットボール部のキング開（文1・アレセイア湘南高）。身長185㌢でポジションはガード。5月には2018adidas EURO TOURにかける時間が多い。プレー面ではタイミングが合わずに苦労した」と話すが、大学バスケットの印象について、「高校とは違い、ウエートトレーニングにかける時間が多い。プレー面ではタイミングが合わずに苦労した」と話すが、関東大学新人戦では3回戦で法大から19得点を挙げ、得点力を発揮した。

「今ではタイミングにも慣れ、得意のドライブで切り込んでからのジャンプシュートや状況を見てしっかりアシストパスも出せるようになった」

「個人でもさまざまな賞を取れる選手に成長したい」（白鳥順也・経済2）

の日本推薦選手に選ばれ、EUROのU16や中国U17選抜といった同世代の選手とスキルトレーニングや試合を行った。

「自分よりスピードがあり、シュート力も高かった。体格に差があり、大きい相手に苦戦した」と話すが、得るものも多く「コーチの助言をもとに自分に足りないものを考え、追求している」

東都大学野球 新戦力台頭

専大は東都大学野球春季リーグ戦（2部）を6勝7敗、勝ち点2の5位で終えた。

悲願の1部復帰は逃したものの、今季は多くの新戦力が台頭した。

投手陣では左腕の佐藤奨真（経営2・関東第一高）が先発、中継ぎとして9試合に登板し3勝3敗の成績を残した。3勝のうち二つで完封し、「自分が投げる試合では最後まで投げ切ってチームを勝利に導きたい」と話した。

もう一人、佐藤優人（経営2・前橋育英高）も7試合に登板し3勝を挙げている。投手陣はこの二人の活躍が1部復帰に必要不可欠だ。

日大戦（5月29日）で本塁打を放つ火ノ浦

一方、野手陣ではチームトップの3本塁打を打った火ノ浦明正（経済3・れいめい高）が今季の収穫だろう。齋藤正直監督は「本塁打はもちろんだが、一打でチームに勢いを与えてくれる。今のチームになくてはならない存在」と火ノ浦の打撃に信頼を置いている。

また、大庭樹也（経済2・明豊高）も好プレーを見せた一人だ。昨年から試合に出場している大庭は長い腕を生かして難しいコースの球も巧みに打ち返すバッティングが持ち味。

投打に新たな主軸が生まれ、明るい兆しが見える。1部復帰を果たし、再び神宮球場で深緑の旋風を巻き起こすために、秋季リーグに向けて専大野球部は動き出している。（八代哲・経済2＝写真も）